



「ふくしまの今を語る人」県外派遣事業
企業向け福島県農林水産物生産者等
講師派遣のご案内



感動のそばに、いつも。

「ふくしまの今を語る人」運営事務局
(株式会社JTB福島支店福島サテライト内)

●

「ふくしまの今を語る人」県外派遣事業の
ご案内

●

はじめに

平素は、格別のご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、この度弊社福島支店では、福島県事業「ふくしまの今を語る人」派遣事業の運営を担当させていただくこととなりました。

ご存じの通り、福島県は2011年東日本大震災において未曾有の大地震と原発事故という2重の災害に見舞われました。今、福島はそこで暮らす人々の努力と官民一体となった復興施策により、次世代につなぐ、「様々な新しい試み」が行われております。

こうした「ふくしまの今」を目の当たりに体験し、「福島の現状や課題、そして目指すべき未来を語る人」を迎えた研修は、企業活動における課題を共有し挑戦する社員・スタッフの皆様にとって貴重な体験となり、「資質・能力」を育てる一環として、大変有効なプログラムになると考えております。

是非、貴社にお役立てできる1つのプログラムとしてのご採用をご検討いただけますよう、お願い申し上げます。

株式会社JTB福島支店
支店長 濱田 正隆
担当 田所 勇希
弓削田 美砂
柄澤 七瑠湖

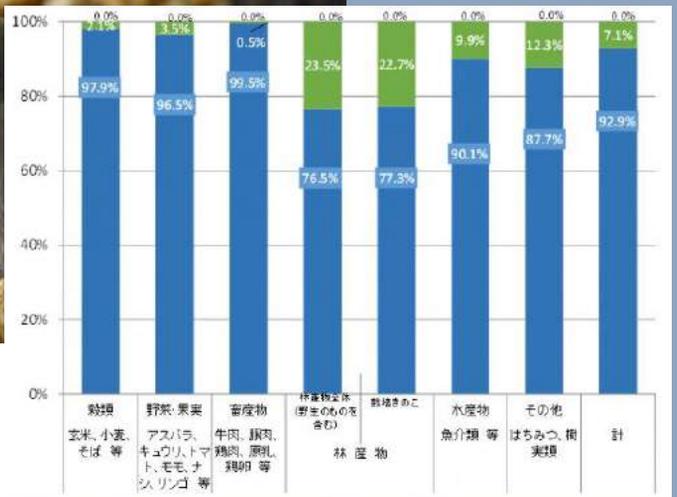
「ふくしまの今を語る人」 県外派遣事業のご案内

「ふくしまの今」から観えること・学べること
 ～講演を通じて、人財育成・企業風土改革へ～

福島で感じる希望。
 それは明日の学びの
 原動力。



福島県は世界で類を見ない複合災害(地震・津波・原発事故)を経験した唯一の場所。今、ふくしまでは、単なる「復興」の枠を超えて、安心安全の取組はもちろんのこと、未来に向けての様々なチャレンジが力強く鼓動しています。
 「ふくしまの今」と触れることは、限りない「ひとの挑戦」を知り「新しい時代に必要となる資質・能力」を育みます。



■ : 基準値*超過 ■ : 基準値*以下 ■ : 検出下限未満

令和2年度の緊急時環境放射線モニタリング検査結果

「ふくしまの今」から観えること・学べること
～講演を通じて、人財育成・企業風土改革へ～

SDGsをはじめとする様々な研修等テーマに応じて派遣講師をご提案いたします。
また、派遣講師のご指名もスケジュール調整の上ご相談できます。

例えば、
福島から、「未来」を観る。

未曾有の大災害から立ち上がり
「未来」を目指す
「福島は今」は、
持続可能な社会実現への
様々な課題や
視点を提起します。



世界一厳しい食品の検査基準を通して、安心安全な農林水産物を消費者に届ける



市場に出回らない規格外の商品でも加工食品として活用し食品ロスを減らす。



農業に関心を持つ若い世代を増やし、技術や経験を伝えていくこと、経済的な安定と働きがいを与えるような産業として成長させる



お申込みから開催までの流れ

お申込

令和 4 年度

1. 申込書をE-mail または FAX にて事務局（株式会社 JTB 福島支店福島サテライト）へ送付して下さい。
（株）JTB 福島支店福島サテライト fukushimanow@jtb.com
TEL:024-503-0915 FAX:024-522-2980（担当：田所、弓削田、柄澤）
講演会実施期間は、6月下旬～2月下旬までとなります。（予定回数に達した場合、期間内であっても受付を終了することがございます。延期等の可能性も考え、早い時期の開催申込をおすすめ致します）
★講師をリストの中から選んで頂き、希望講師を第3希望まで記載ください。または「一任」「農業分野で一任」等でご記入ください。「一任」の場合も、講演会で話いただきたい内容やご要望を具体的にポイントをしぼってご記入ください。
★講師・講演会内容の調整のため、簡単なヒアリングや事前打合せをさせていただく場合がございます。参考に一部講師の講演は、Youtube 動画でご覧いただけます。
<参考> FUKUSHIMANOW
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/movie-now/list476-1429.html>
- 
2. 運営事務局より申込み受付のご連絡をメールにていたします。
★併せて派遣先住所、資料類・試食品の送付先など確認させていただきます。
 3. 運営事務局にて各種調整の上、講師派遣決定通知をメールにてご連絡いたします。
調整にお時間をいただいておりますので予めご了承ください。
★お申込状況や講師のスケジュール等によりご希望に沿えない場合がございます。
 4. 県産品お土産品の決定（開催日の8週間前から3週間前）
★新型コロナウイルスの感染防止のため当日の試食は行わず、お持ち帰り可能な品を予め送付いたします。
 5. 運営事務局より県産品お土産品および配布資料、投影資料を送付（開催5日前～前日）

当日（所要時間 目安：45分～100分）【実開催およびオンライン開催】

1. 講師及び事務局スタッフが会場到着後に担当者様と簡単な最終打合わせをします。
2. 開始 ※司会進行は、依頼者様にてお願いします。
 - (1) 開会挨拶（1分～5分）（依頼者）
 - (2) 「ふくしまの今を語る人」事業説明（5分～15分）（運営事務局）
 - (3) 講演（30分～45分）ふくしまの今を語る人 【講師】
 - (4) 質疑応答（5分～10分）、アンケート記入
 - (5) 閉会
★お土産は、講演時にお渡しさせていただきます。
★上記の流れは一例ですので、各講演会で異なります。

◆依頼者側でご準備いただくもの◆

- ・PC、HDMI
- ・スクリーン、プロジェクター
- ・クリッカー（あれば）
- ・マイク、演台など

終了

1. 簡単なアンケート記入が必須となっておりますので、ご協力ください。
★アンケートは forms（Web アンケート）または、紙で実施いたします。
★紙アンケートの場合は講演当日に回収し、運営事務局担当者が持ち帰ります。
★お土産送付によって出たゴミ、資料を送付した段ボール等の処分のご協力をお願いします。

「ふくしまの今を語る人」県外派遣事業の
ご案内

お申込み用紙

「ひとつ、ひとつ、実現するふくしま。「ふくしまの今を語る人」派遣申込書

【申込先】株式会社JTB福島支店福島サテライト 〒960-8043福島市中町1-19中町ビル4階
<FAX>024-522-2980<TEL>024-503-0915<メールアドレス>fukushimanow@jtb.com

■申込日 年 月 日（派遣時期は令和4年6月下旬～令和4年12月23日まで）

派遣希望日時	第1希望 年 月 日（曜日）：～：	
	第2希望 年 月 日（曜日）：～：	
	第3希望 年 月 日（曜日）：～：	
イベント等の名称 又はテーマ	「 記入例：ふくしまの食と安全の取組みを知る学習会 」	
派遣先名 例) 市民会館2階 市民ホール	派遣先会場： 住所：〒 - TEL：	
開催方法 ※○印をつける	オンライン開催 ・ 実開催 ※オンライン開催の場合は、配信システムはZoomです。	
参加予定者数	講演参加見込 名 ※講演3週間前にはご人数確定が必要	
派遣希望講演者名 ※第3希望まで	（講演リストを参照に番号と氏名をご記入ください。 決めかねる場合等は「一任」に○印を） ① ② ③ 一任（希望○印：農業[米・野菜・果物]・水産・畜産・酪農・林業）	
講演内容についてのご要望	※具体的に分かりやすくご記入ください。なお、その講師のテーマや専門外の内容に 関しては、ご希望に添えませんので予めご了承くださいませ。	
試食提供の可否 ※○印をつける	可（お土産形式のみ）※派遣事業にパッケージ化されている為、お土産付となります 否（否の理由：）	
申込団体名		
申込者・連絡先	ふりがな	
	担当者氏名・部署	
	電話番号&FAX番号	TEL： FAX：
	メールアドレス	
資料・お土産品等の 送付先	〒 -	

- 1 講演希望日時や講演会等の名称が「未定」であっても派遣申込する用意があればお申込ください。
- 2 講演者の手配、調整、補助、資料作成に関する費用は福島県（受託事業者）が負担いたします。
- 3 派遣申込書が届き次第、受託事業者よりメールまたは電話にてご連絡差し上げます。
- 4 県の広報等への使用目的で写真及びビデオ撮影や、新聞社の取材が入る場合があります。

◆事業実施者：福島県消費生活課
◆共 催：消費者庁

「ふくしまの今を語る人」県外派遣事業の
ご案内

講師リスト

令和4年7月1日
福島県消費生活課

No.	講師氏名	講演テーマ・内容・プロフィール
1	 景井 愛実	<p>◆女性の感性と新しい連携でつなぐ農業【農業・商品開発・発信】</p> <p>(元アパレル職である自分が結婚を機に農業に携わり、震災を経験し、農の尊さに気づき守るために模索してきた13年。見えてきたものと目指すことを女性視点からお話いたします。)</p> <p>Berry's garden代表。農水省農業女子プロジェクトメンバー。2007年福島県の果樹農家に嫁いだのをきっかけに農業に携わる。震災を契機に農業と向き合い、2017年に「Berry's garden」を設立、福島の農産物の商品開発・発信部門を展開。福島の農産物を世界中に届けるため奮闘中。</p>
2	 橋内 義知	<p>◆ふくしまが好きだから。～果樹園の現場から～【農業・果樹園】</p> <p>(果物をおいしいと食べてくれる人たちのために、誇りと自信を持って作り続けている。なぜ福島が好きなのかと震災後の取り組み、そして絵本づくりについての想いを語ります。)</p> <p>果樹園きつない代表 福島市出身。大学、社会人時代(中央市場セリ人)を横浜で過ごす。2010年結婚と同時に福島へ戻り就農。震災後より地元の先輩、仲間と共にふくしま土壌クラブを設立、福島県産果実の復活を目指す(現ふくしま土壌ネットワーク副代表)。</p>
3	 齊藤 登	<p>◆ふくしまの農業の再生から全国に【農業・米・きゅうり・野菜・販売ルート開拓】</p> <p>(震災により福島県農業に何が起き、どう立ち向かってきたか。そして、今、目指すものは？福島第一原発から50キロ。米と野菜の専業農家が、現場から生の声を届ける。)</p> <p>二本松市出身。県を中途退職し農業へ。NPO法人がんばろう福島、農業者等の会代表。震災直後より、首都圏等で風評被害を乗り切る直販活動を展開。</p>
4	 佐藤 宏実	<p>◆毎週日曜、開催！作る人と買う人をつなぐ青空市場“GoodDayMarket”【農業】</p> <p>(震災前までは、京都にある日本料理屋「京都吉兆」10年勤務。そこで福島の食材の美味しさを再認識。震災後福島に戻り、福島の食と農の素晴らしさをPRする活動に取り組み続ける。)</p> <p>福島市在住、青空市場の運営や野菜の移動販売、まちなか野菜直売所「お百しょう屋」の運営、2018年より参加型無農薬無肥料米生産に取り組み、自然栽培の野菜・果樹・花卉栽培にも挑戦中、一般社団法人GDMふくしま代表理事</p>
5	 鈴木 正美	<p>◆福島県農業の現場から見える課題とこれから【農業・米・販売ルート開拓】</p> <p>(原発事故前後農業を取り巻く環境や人口減少や高齢化、原発事故後の風評被害に地域がどう取り組むのか。「現場」の人々の前向きな活動と声を伝える。)</p> <p>矢祭町出身。農業法人でんばた取締役。産学官連携の精密農業(土壌センサーポットの設置等)実践や農産物の県外直販、高齢者見守り活動等を展開。</p>
6	 関 元弘	<p>◆いつまでも続いていける人と環境に優しい農と暮らしを目指して【農業・米・野菜】</p> <p>(原子力災害により一気に加速した農業・農村の衰退という危機的状況を突破するため、「楽しく」かつ「真面目」に様々な取り組みをしている元役人夫婦の話。)</p> <p>東京都赤羽出身。夫婦共々元農林水産省役人。有機農業、酒類製造業、両者を活用した都市農村交流(アルコールツーリズム)に取り組む。</p>
7	 滝田 国男	<p>◆農業体験者実践者が語るふくしまのいま【農業・販売ルート開拓】</p> <p>(日本の「食」の大切さ素晴らしさを、農業体験からと実践。首都圏の多くの人々との出会いが生まれた。震災後に足が止まった体験者も、徐々に復活。その過程でのやりとりを語る。)</p> <p>白河市(旧表郷村)出身。合併前の表郷村最後の村長。米農家。震災後、新たに農産物の生産会社を設立。安心な食材を通して、農業の将来像づくりに励む。</p>

「ふくしまの今を語る人」県外派遣事業の
ご案内

No.	講師氏名	講演テーマ・内容・プロフィール
8	 <p>但野 忠義</p>	<p>◆酪農、乳業での安全、安心を求めて【酪農】</p> <p>(政府より生乳出荷停止を受けて、再出荷から不検出(ND)を守り続けてる酪農、乳業の取り組みを酪農家、そして元組合長の視点から伝える。)</p> <p>南相馬市出身。酪農家。元福島県畜産振興協会会長、元県酪農業協同組合組合長。避難中の酪農家支援。乳牛580頭が飼育可能な「復興牧場」整備に着手。</p>
9	 <p>寺山 佐智子</p>	<p>◆ふくしまから始まる SHINSEKIプロジェクト 【農業・果樹・民泊・6次化】</p> <p>(農業という舞台を通じて、人と人を繋ぎ、食を伝え、人生を豊かにする「SHINSEKIプロジェクト」という新しい農業の仕組みをお伝えします。)</p> <p>栃阿部農縁 代表 須賀川市の農家生まれ。1989年から2007年まで公立岩瀬病院にて看護師・ケアマネージャーとして勤務。その後就農。震災後6次化を積極的に進め2012年12月法人化。食と農と人で元気を届ける活動を進めている。</p>
10	 <p>新妻 良平</p>	<p>◆原発30キロ圏内の米づくり農業の現場から【農業・米・有機栽培】</p> <p>(専業農家になった経緯や取り組み、原発事故後の変容を紹介しながら新たな出会いや農業を続ける「想い」を伝える。)</p> <p>広野町出身。専業農家、県指導農業者。(株)新妻農園代表。広野町農産物加工施設代表、同直販所組合長。避難町民にとっての買い物・交流の場を運営。</p>
11	 <p>長谷川 純一</p>	<p>◆人と種を繋ぐ会津伝統野菜【農業】</p> <p>(先人たちが守ってきた歴史ある会津伝統野菜を通して、人と種を繋ぎ、伝える活動を紹介する。ふくしまの食文化を重んじる専業農家の話。)</p> <p>会津若松市出身。専業農家。会津農書を語り継ぐ会の会長。伝統野菜を通じて復興を世界へ発信。会津小菊かぼちやの種まき・苗移植をスペインで実施。</p>
12	 <p>八多 宣幸</p>	<p>◆水産業の復興に向けた取り組みについて【漁業】</p> <p>(津波被害からの復旧。魚介類への放射能影響と試験操業の展開。今後の本格的な再開に向けた取り組みと展望を伝える。)</p> <p>福島市出身。(前職:福島県漁業協同組合連合会災害復興プロジェクトチームリーダー)産地市場での検査体制の整備と安全性の発信。</p>
13	 <p>藤田 浩志</p>	<p>◆魅力たっぷり！福島の農に生きる【農業・米・野菜】</p> <p>(「ふくしま」で生きる農家として、震災後何を考え何を実行したか。数多くの方との出逢い・対談から何を見出し、何を学んだかを伝える。)</p> <p>郡山市出身。農家8代目後継者。日本野菜ソムリエ協会認定野菜ソムリエプロ。生活者と農業者の架け橋を目指し、市内農家有志と共に多彩な活動を展開。</p>
14	 <p>三浦 広志</p>	<p>◆原発事故からの浜通り地方の地域復興と農業の再生【農業の再生】</p> <p>(震災・原発事故後に取り組んできた農地の復旧や農業の再生、米の全袋検査を始めとした放射能測定事業、太陽光発電の拡大やそれを活用した避難地域の再生などを紹介する。)</p> <p>新地町在住。農事組合法人浜通り農産物供給センター代表理事。特定非営利活動法人野馬士代表理事。南相馬市小高区井田川から避難。半農半エネで避難元の農業の再生に取り組んでいる。</p>
15	 <p>桜山 智美</p>	<p>◆おいしい果物と大好きな福島と家族と共にある幸せな農業【農業・果樹園・直販店経営】</p> <p>(菅野果樹園の長女として20代で就農。福島を代表する果物の美味しさと震災後の取り組みや家族と共に夢をカタチにしていける農業の楽しさを伝える。)</p> <p>桜山果樹園 福島市大笹生の農家生まれ。農家へ嫁ぎ、夫婦で果樹園を営夫と共に20年来の夢を叶え『人が幸せに集う』直売所openし、経営。</p>

「ふくしまの今を語る人」県外派遣事業のご案内

No.	講師氏名	講演テーマ・内容・プロフィール
16	 ヤマザキ トモミ 山際 博美	<p>◆「食」を通してふくしま復興へ【郷土・料理人】</p> <p>(福島県農産物の現状や活かし方、地域で6次化の商品開発を行うために必要な極意など、県内外で活躍中のシェフが説明する。)</p> <p>郡山市出身。(株)山際食彩工房代表。ヴィライナワシロ調理顧問。「あいづ食の陣」実行委員長。「地産地消の仕事人」。地域産業6次化総合アドバイザー。</p>
17	 ヤナイ ケンジ 柳内 幸之	<p>◆水産業の復興と賑わい拠点としてのまちづくり【漁業】</p> <p>(大震災と原発事故による被災からの復興と現状及び地域の発展への関わりを、福島県最大の港、小名浜港に立地する小名浜魚市場や地場の漁業を中心に紹介する。)</p> <p>いわき市出身。小名浜機船底曳網漁業協同組合 理事。2010年より福島県漁業協同組合連合会理事を兼務し、震災後、福島県の漁業の復興に尽力。</p>
18	 ミナミ ヒロアキ 湯田 浩和	<p>◆震災と同時にスタートした農産物加工【農業・6次化農業】</p> <p>(震災発生数か月前に取り組みが始まった農産物加工。当時の状況に加え「福島=苦しんでいる」というイメージを払拭したく、今後の展望を前向きな想いと共に伝える。)</p> <p>南会津町出身。「土っ子田島farm」を通じ花卉栽培、農産物加工(ジュース・ジャム)、味噌等を製造販売。脱サラ・Uターンの後、地元で6次化推進を牽引。</p>
19	 キクチ ケンジ 吉成 邦市	<p>◆「天栄米」日本一の米作りを目指して【農業・米】</p> <p>(震災後に受注契約が全解除、いち早く対策に取り組んだ。国際コンクールで6年連続の「金賞」を受賞。回復の裏にある「日本一美味しい米作り」への諦めない努力と熱い想いとは。)</p> <p>天栄村出身。「放射能ゼロ」を目標に、農家を励ましコメ作りに取り組む同氏の姿を追ったドキュメンタリー「天に栄える村」が各地で上映。</p>
20	 ツカガワ トミ子 渡邊 とみ子	<p>◆諦めない心で立ち上がる女性の力でふくしま福幸を【農業・6次化農業】</p> <p>(飯舘村での活動を通して原発災害でも諦めない心で「かーちゃんのカプロジェクト」や農業に取り組む姿を紹介する。)</p> <p>福島市出身。「いいたて雪っ娘かぼちゃプロジェクト協議会」会長。元NPO法人かーちゃんの力プロジェクトふくしま理事。イベントを通して元気発信。県産品発信団体を設立。</p>
21	 ミサキ ミサ子 矢数 美里子	<p>◆小名浜伝統製法の秘伝のたれ「味丸黒干®」のブランディングと販路開拓、継承の想い【漁業・加工品・販売ルート開拓】</p> <p>(小名浜発祥のさんまみりん干しのはじまり。震災後、地元の名産品だけではなく全国に広める活動。秘伝のたれを継承するためにブランディング開始。)</p> <p>いわき市出身。合資会社カネキ商店代表社員。70年以上継ぎ足し続ける秘伝のたれ「味丸黒干®」で黒干を製造販売。震災後生産者自ら営業活動を展開。</p>
22	 カワサキ ユキ 川瀬 洋	<p>◆「食えば分かるさ」福島(ふくしま)の魚！！【水産業・加工販売】</p> <p>(被災した相双地域の漁協復興までの9年間の思いと漁協スタートからの取組み、そして未来につながる福島の水産について伝える。)</p> <p>二本松市在住。マルカワ水産役員。飲食店業、水産物卸業、水産物加工販売業、市場仲買人。相馬 双葉漁業協同組合員。</p>
23	 サイトウ リョウ 佐藤 良一	<p>◆被災地域での農業の復興、スマート農業を駆使し若手社員の人材育成、大規模土地利用型農業を展開【農業・スマート農業・人材育成】</p> <p>(震災後、2012年警戒区域でいち早く水稻の試験栽培を開始、品目を増やして栽培を継続。2017年紅梅夢ファーム設立。農水省スマート農業実証プロジェクト採択。現在110haを経営。)</p> <p>南相馬市小高区在住。専業農家の9代目。旧小高町議会議員、南相馬市議会議員、南相馬市農業委員を歴任。稲作を中心として野菜や菜の花を生産する(株)紅梅夢ファーム代表取締役社長。平均年齢27歳と若手社員が活躍している。</p>

「ふくしまの今を語る人」県外派遣事業の
ご案内

No.	講師氏名	講演テーマ・内容・プロフィール
24	 <p>阿部 峻久</p>	<p>◆福島の漁業のこれまでとこれから【水産業・販売ルート開拓】</p> <p>(福島県沖で獲れる“常磐もの”と呼ばれる魚は、築地市場において高値で取引をされてきたが、震災により、漁港が全壊。2021年には、試験操業から本格操業へと移行したが、水産業の復興は、まだまだこれから。水産業の現状や常磐ものの魅力について紹介する。)</p> <p>いわき市在住。合同会社はまから代表。いわき市の産業支援機関にて起業支援や中小企業に係る補助金業務等に従事してきたが、全壊した久之浜漁港の復興をめざし2020年に魚屋を立ち上げ独立。現在、仲買人として鮮魚出荷・商品開発や、漁師の担い手育成事業等を行っている。</p>
25	 <p>星 巖</p>	<p>◆里山づくりに励む【農業・民泊】</p> <p>(農家民宿の経営、里山づくりに携わるようになった経緯や今の思いを、原発事故後の暮らしの変容、仲間達との取り組みを織り交ぜながら紹介する。)</p> <p>南相馬市在住。東日本大震災時には被災地の市役所職員として避難所を運営。南相馬市役所職員を早期退職し、農家民宿を経営。現在は、民宿周辺の里山づくりに励む。</p>
26	 <p>齋藤 由美子</p>	<p>◆“もったいない”こそ価値あるブランド～完熟桃で商品開発～【農業・商品開発・発信】</p> <p>(おいしいのに出荷できない完熟桃に着目。桃の魅力を通年楽しめる商品を開発。フードロス無くし、農家と共に福島のブランド力を発信。)</p> <p>福島市在住。(株)ももがある代表。ゴスペルディレクター。桃をメインとした農産加工品を販売しながら、全国・世界へ赴き福島の食文化を伝える。</p>
27	 <p>加藤 絵美</p>	<p>◆農地を守り新たな文化をつくる、フリースタイル農家の挑戦。【農業・米・野菜・商品開発・発信】</p> <p>(震災を機に福島を、農業をなんとかしないと、と奮起。関わって手を差し伸べてくれた方々への感謝と恩返しをエネルギーに変えて挑戦してきた事、想いを伝える。)</p> <p>フリースタイル農家。株式会社カトウファーム専務取締役。B-eat JAPAN(食のイベント企画)代表。YellowBeerWorks(クラフトビール)オーナー。2009年に就農し4人の子供を育てながら、農業、加工、醸造に携わる。農水省の委員などを経て講演や海外でのイベントも多数。</p>
28	 <p>ポンド 亜貴</p>	<p>◆世界から見られるFUKUSHIMAから、FUKUSHIMAから世界へ発信する農業へ【農業・6次化農業】</p> <p>(ヨーロッパで過ごした経験を基に、オーガニックで植物や動物を育てることの意義とその美味しさを実感。FUKUSHIMAだからこそ、持続可能な世界を作る可能性があると感じる。)</p> <p>会津若松市在住。Bond&Co.代表。13年間ポーランドやイギリスで過ごす。震災を機に帰国。現在父が始めたアイガモ農法を引き継ぎ有機米を栽培、そのお米でお酒を委託製造して販売している。日大工学部やその他のコラボレーションで活動の環を広げている。</p>

福島県内生産者が現状の取り組みについて講演を通じて
ありのままの福島をお伝えすることが弊社の使命です。

「ふくしまの今」にご興味があるご担当者さま
「ふくしま」を応援してくださる企業さまは
お気軽に運営事務局までお問い合わせください。

事務局	株式会社JTB福島支店 福島サテライト
担当者	田所 勇希・弓削田 美砂・柄澤 七瑠湖
住所	〒960-8043 福島県福島市中町1-19 中町ビル4階
連絡先	TEL:024-503-0915 FAX:024-522-2980 e-mail: fukushimanow@jtb.com



福島県内の生産者による講演を通じて、ふくしまの食と放射能について正しい情報を発信し、風評を払拭するための活動をしています。

WEBサイトには、講演の様子を動画で掲載しております。

また、講演をご希望の団体はWEBサイトからもお申しいただけます。



詳しくは下記WEBサイトからご覧いただけます。



<https://www.fukushima-now.jp>